



ギターを演奏して音楽発表の場設置を提案

狛江高校生の地域社会貢献プロジェクト

街づくりへ若いアイデアいっぱい

都立狛江高等学校で3月23日 日に、狛江市の活性化をテーマにした「地域社会貢献プロジェクト2021」の発表会が行われた。

この学習は、学校と地域の連携を深めることを目的に、当時2年生の8クラス319人が狛江市について学び、観光、商業、農業、未来戦略、市政の5項目について自分たちができる地域貢献を考えた。生徒は5グループに分かれ、9月から商店、農家、観光協会役員、市職員など5人の講師から専門授業を受けてテーマごとの現状や問題点などを掘り下げ、改善に向けた提案や特産品開発のアイデアの検討などに取り組んだ。

最後の授業となるこの日は、5人の講師に加え、松原俊雄狛江市長、藤田克彦狛江市観光協会会長を同校体育館に招き、生徒がグループごとに発表した。

観光グループは多摩川などの観光名所や市内のカフェの魅力を紹介したビデオを発表。農業グループは農業体験ができるベジパークの創設、市内産ハチミツを使ったスイーツなど、商業グループは和泉多摩川商店街の活性化に向け200円で買える商品やサービス、未来戦略グループは若い世代が子育てしやすい街にするため市営の塾の開設や語学教育の充実、市政グループは高校生の音楽発表の場の設置などをそれぞれ提案した。

また、高校生が利用しやすい安価な飲食店や学校行事での市内の商店の飲食販売、高校生観光大使によるSNS発信など数々の具体的な提案が出された。

優秀な提案グループを表彰した松原市長は「市・地域・学校

が連携して街づくりをするのは初めての試み。市としてもアイデアを取り入れ、みなさんと一緒に街づくりをしたい」、浜田浩和校長は「地域と一緒に深い学びができ、皆さんの今後に良い影響をもたらしてくれたと思う」と話していた。

表彰された農業チームの沖真凜さんと小河春香さんは「直売所を知らない市民も多かったが、生産者と消費者が距離を縮め、農業も商業も活気があふれ、若い世代も参加できるイベントができたらいと思う」と感想を述べていた。担当した長山拓郎教諭は「初めての試みで準備など大変なことも多かったが、地域のために何ができるかを考えるきっかけになった」と話し、今後も地域連携の学習を続けたいと希望していた。

夜空に浮かぶ桜の並木 スタンプラリーも人気

こまえ桜まつりが3月19日 日から27日 日まで実施された。新型コロナウイルス感染症を考慮して昨年に続いてスタンプラリー形式で行われ、スタンプラリー賞には1,980人が応募した。

また、西河原公園付近の多摩川堤防では桜のライト



桜並木のライトアップ

アップが行われた。桜の開花状況に合わせて当初の予定より1週間期間を延長し4月3日 日まで実施、訪れた人たちは夜空に浮かぶ白い花の並木に見入っていた。

狛江駅で上手いもの市 福祉施設が製品販売

市内の8カ所の福祉施設が作る食品や雑貨を販売する「上手いもの市」（上手いもの市実行委員会・狛江市主催）が17日 日と18日 日午前11時～午後2時に狛江駅改札前催事スペースで開かれる。

このイベントは、福祉作業所や就労支援施設、訓練室などで作っている商品を通して障がい者への理解を深めようと令和元年に初めて開かれ、以後も開催の度に人気を集めている。4回目の今回は、17日 がこまえ工房（クッキー、雑貨）、カレーショップメイ（菓子パン）、ポンテ（入浴剤・雑貨）、パザパ（雑貨）。18日 はひかり作業所（ジャム・海苔の佃煮ほか）、ワークインひなた（クッキー）、ワークイン・メイ（パウンドケーキ）、麦の穂（押し花・手織り製品）（かっこ内は販売予定品）。

問い合わせ ☎5438-3533 狛江市社会福祉協議会内 狛江市障がい者地域自立生活支援センター。

沖縄復帰50周年イベント 29日にえきまえ広場で

沖縄の日本復帰50周年を記念し29日 日午前10時～午後5時に狛江駅北口のえきまえ広場で沖縄の文化に触れるイベント「かじう

Shop & Service Guide ...12

いらっしゃいませ

ブリーズウェイ
BREEZE WAY



マンション1階にあるBREEZE WAYは切り花を扱う生花店で、野菜や果物、陶器の小物なども扱う地域に根ざしたショップ。

同店は、代表の松山朋子さんの母・昌子さんが、家庭で季節の花を楽しんでもらおうと、約20年前に昌子さんの夫が営んでいた生花店のアトリエ兼倉庫だった現在の場所に開いた。店の前はよく風が通ることから、風通しのいい店にしたいという意味も込めてBREEZE WAYと名付けたという。

店を訪れるマンションの住民や野川へ散歩に来る人に、花を通じてひと足先に季節を味わってもらおうこと

切り花を通して季節感を演出 住民の要望で野菜なども販売



松山朋子さん（右から2人目）と母の昌子さん（右から3人目）とスタッフ

☎3480-0401 東野川13-17-2狛江ハイタウン2号棟1F 営業時間＝午前10時～午後5時（日曜日は午後3時）月・火曜日休み

むい（風思い）（狛江で沖縄実行委員会主催）が開かれる。

市内には、昭和22年から沖縄出身の学生のための「南灯寮」が岩戸北にあり、寮生と市民の交流もある。

今回のイベントは、沖縄映画祭や三線・琉球舞踊教室に関わってきた人や賛同者を中心に約10人が実行委員会を結成して開催、狛江市のほか沖縄県、南灯寮、東京沖縄県人会が後援する。

イベント名は沖縄からやってくる風（声）に思いをはせるという意味で付けられた。当日は沖縄出身で市内に住む77歳の女性が

作ったソーキやテビチなど沖縄の郷土料理を販売、沖縄そば、タコライスのキッチンカーも出店、泡盛も飲める。また、三線の演奏、琉球舞踊、空手の演武など、様々な沖縄文化に触れるという。

問い合わせは☎3489-2246同実行委員会 宇夫方路さん。

自転車の安全利用を 自転車商業会が無料点検

春の全国交通安全運動期間中の4月13日 日、狛江駅北口交通広場で自転車安全利用キャンペーンが行われ、自転車グッズの配布などを行った。



自転車の無料点検

に力を入れている。同店では冷蔵庫を置かず、温度変化を嫌う切り花をガラ

ス瓶などで保管しており、小まめに仕入れを行うほか、花の持ちを長くするため、水揚げが良くなるように花の種類に応じてきめ細かい手入れを施している。

また、花のアレンジメントにも力を入れており、用途や予算に合わせて対応している。季節の行事にちなんだ切り花と、動物などをモチーフにした陶製の置物などと組み合わせたアレンジメントが人気だという。店には、小さな置物なども並べられ、女性に好評だ。

開店当初は周辺に生鮮食品の店が数軒あったが、次々と閉店していった。日常的な食品の買い物に不便を訴える顧客の要望にこたえ、10年ほど前から、花を仕入れている世田谷市場内にある青物市場で大根やタマネギ、ニンジンなど日持ちする重い野菜を販売するようになった。これが好評だったため次第に品数を増やすとともに、比較的珍しい全国各地の野菜や果物のほか、立ち退きで移転した店のパンも週1回販売している。また、マンションの住民が作った袋物なども展示販売している。

朋子さんは、母から生花店を引き継ぐ前、店を手伝いながらケアマネジャーもしていた。現在は退職したが、高齢者の外出機会の創出や地域での居場所作りにも積極的に関わっている。同店がそのきっかけになることを目指しており、「家に花を1輪飾るだけでも気持ちがあがります。高齢者だけでなく、地域のいろいろな年代の人が季節を感じられる交流スペースにしたので、ぜひ気軽に立ち寄って欲しい」と話している。

キャンペーンには東京都自転車商協同組合調布支部加盟の5店が協力、無料点検の会場に次々と訪れた自転車をチェック、ブレーキやチェーンなどをてきぱきと整備していた。